

【レーティング・モニター(格下げ方向)】 緑資源機構

格付投資情報センター(R&I)は上記の格付けをレーティング・モニターに指定しました。

【レーティング・モニター指定の理由】

赤城徳彦・新農林水産大臣は6月1日、就任記者会見で、水源林の造成や林道の建設を手がける独立行政法人、緑資源機構を廃止の方向で見直すことを表明した。赤城大臣は会見で、①発注側がかかわった談合であり、決して許されない、②安倍総理からも抜本的に見直すよう指示があった——とし、事務方に廃止の方向で検討するように指示した、と発言した。

首相の諮問機関である規制改革会議(議長・草刈隆郎日本郵船会長)も5月30日、緑資源機構について、手がける主要3事業のうち、林道事業と農用地総合整備事業は新規事業を凍結、着工済み工事を縮小し、全事業終了後に事業そのものを廃止するなど、大幅な事業の縮小を求める提言を行っていたが、赤城大臣はさらに踏み込んで緑資源機構そのものを廃止する方針を打ち出した。

水源林造成事業は水源の涵養や国土の保全という点から政策上の重要性が高いこともあって、事業そのものを完全に廃止する可能性は考えにくく、また林道事業、農用地総合整備事業についても現在すでに進行中の事業については継続する必要があることから、事業は他の組織によって引き継がれ、債権債務も承継されると考えられる。このため、R&Iが格付けしている緑資源債券(財投機関債)の元利払いに支障が出るような事態は今のところ想定していない。しかし、廃止を目指す以上、政策上の重要性、国との一体性は弱くなっていく。現時点では債権債務の承継がどうなるのか、主要事業の取り扱いがどうなるのか、不透明な面が多いことから、発行体格付け、既発行債券を格下げ方向でレーティング・モニターに指定した。廃止に向けた具体的な動きを確認したうえで、新たな格付けを公表する。

【格付け対象】

発行者：緑資源機構

名称	格付け			
発行体格付け	(AA)格下げ方向			
名称	発行総額 (百万円)	発行日	償還日	格付け
第1回緑資源債券	4,000	2002年11月26日	2012年9月25日	(AA)格下げ方向
第2回緑資源債券	5,000	2003年7月10日	2013年6月20日	(AA)格下げ方向
第3回緑資源債券	6,600	2004年10月22日	2014年9月25日	(AA)格下げ方向
第4回緑資源債券	6,600	2005年10月21日	2015年9月25日	(AA)格下げ方向
第5回緑資源債券	6,300	2006年10月18日	2016年9月23日	(AA)格下げ方向

☆発行体格付けとは、発行体が負う金融債務についての総合的な債務履行能力に対するR&Iの意見で、原則としてすべての発行体に付与する。個々の債務(債券やローンなど)の格付けは、契約の内容や回収の可能性などを反映し、発行体格付けを下回る、または上回ることがある。